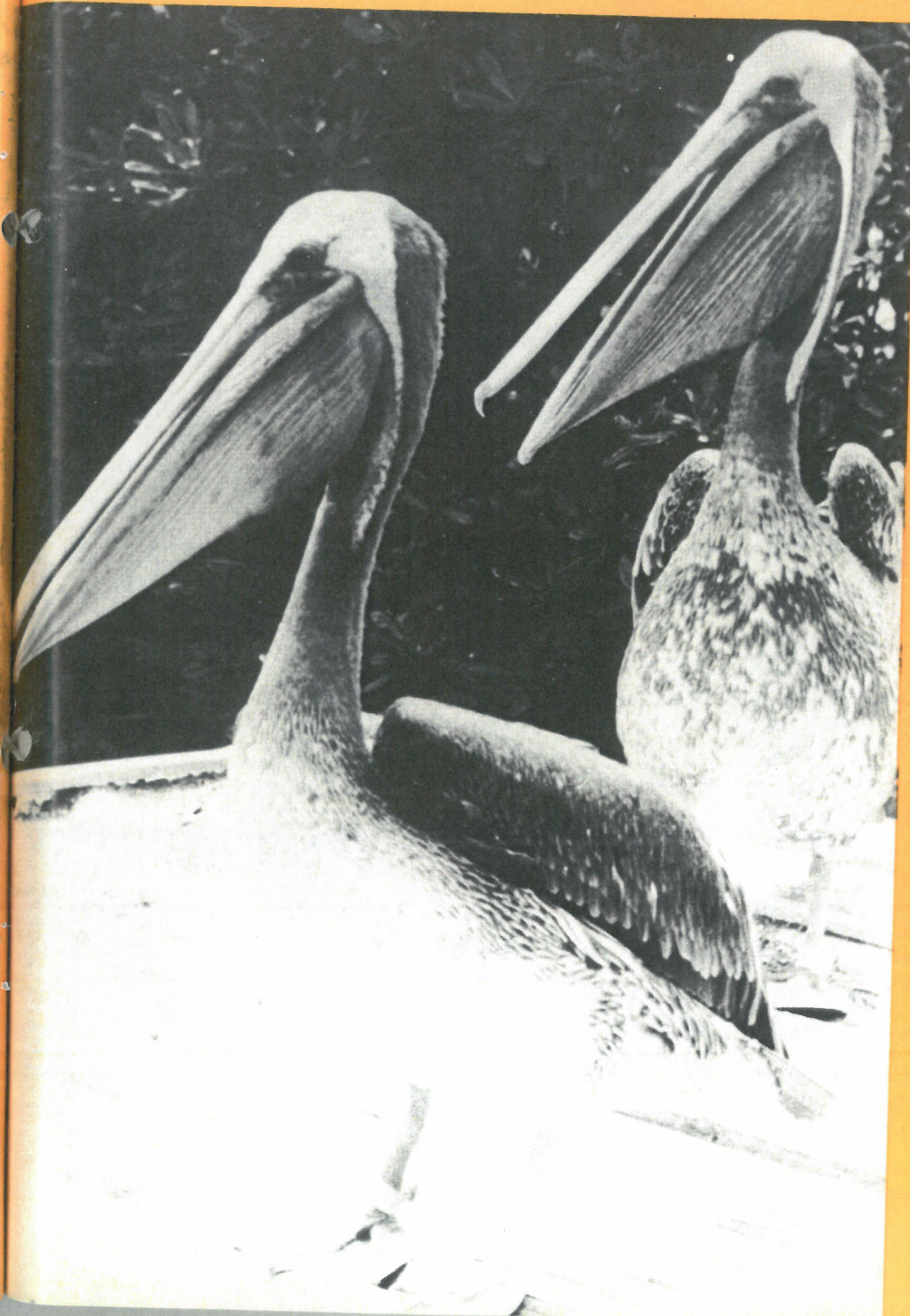


# なきごえ



1976

7

大阪市  
天王寺動物園協会



# 動物と私

梶山彦太郎

「兔追いしあの山、小鮒釣りしあの川」歌詞にまで現れるふるさとは、常にその人の脳裏に焼きつけられ、一生忘れる事のない懐しい思いであるが、それらは今も変りない山河に、動物を相手に展開されている。花にたわむれる蝶をながめ、草原に遊ぶトンボを追った思いでは、大阪市の北はづれ「十三」に育った私にも、懐しい故郷の思いでとして残っている。しかし自然破壊の甚しい都会地に育った私には、思いでの山河は跡がたもなく変りはて、紅緑のネオンがまたたく繁華街となってしまった。これが都会の宿命と言えればそれまでであろう、だが変らない故郷の山河を、まぶたの裏に大切に持っている人達を見る時、親を失った人の様な淋しさを、感ぜずにはいられない。

こうして幼い頃の「遊び場」即ち自宅から一定の行動半径内の思いでの地は、ほとんど破壊されつくしたが、時折親に連れられ喜々として遊びに行った土地の思いでは、そう沢山もないが、ありありと思いだされてくる。その数少ないスライドの中で、最も重要な部分を占めるのが、動物園附近の記憶である。大正5年の春小学校に入学した私は、その前後から、何回となく訪ねたこの附近の思いでは、大変なつかしいものとなっている。当時の楽天地や、通天閣は姿を変えたが、茶臼山の「たたずまい」は、幼い頃の思いでをよみがえらしてくれる。その山ふところに抱かれた様な動物園は、私のまぶたに浮ぶなつかしい故郷の一つである。当時の大阪市の小学校に行う児童数は、相当な数にのぼっていたことだろう、だから私と同じ様に動物園に故郷のあたたかさを感

じる人の数は、非常な数になると私は思っている。動物園の思いの中で、特に私の心に焼きつけられているのは、その当時粗末な覆い屋根の下に保存されていた、鯨の骨格である。「鯨って大きいものだなあ」、歩いて何歩あるかと、幼い足を運んだ思いでが今もありありと思いだされてくる。その後なにかで読んで知ったのだが、この鯨は「シャチに追われたものか、泉州海岸に打上げられたものを、初代園長の林さんが自らメスをふるって解剖されたものだ」と書いてあったと記憶している。

幼い頃新淀川のワンドで蛸を採っていた私は、長ずるに及んで貝に興味を持ち、余暇をさいては海や川に貝殻を求め、又大阪の建築工事場等に出土する地下の貝を採集して歩き、逐にはこれによって私達をはぐくんでくれた母なる土「大阪平野」の、発達史を解明しようとする様になった。言い変えようと、今までの歴史資料の根幹をなした「日本書紀」や、「古事記」といった文献にたよらず、自然科学の分野から、往古の大阪の姿を復元しようと言うわけである。大阪平野の各所の地下から現れる鯨の遺骨は、私の研究に常に力強い助言を与えてくれ、当時の環境復元に重要な手がかりとなった。

私は今も機会ある毎に、大阪の地下にもぐり、何千年か前の世界の海に、汐干狩りに行った様な気持で貝を求め、四次元の世界をさまようが、常に動物を介して自然に接する姿には、幼い頃と何の変りもない様な気がする。私は今後もひまをさいては、今までと同じ様に「遠い昔の大阪の海」で、貝をすなごる生活をつづけることであろう。しかしそれが私の「いきがい」でもある。(貝類蒐集家)

## なきごえ7月号もくじ

動物と私	2
保護されたコアホウドリ	3
動物園グラフ	4・5
キーウイによせて	6・7
天王寺のどうぶつたち(15)	8・9
獣医室から⑩	10
動物園ニュース	11

## 表紙の写真説明

“カッシュョクペリカン”  
南北アメリカ大陸の熱帯地方に分布するペリカンで、モモイロペリカンに比べ一回り小さく、地味な羽色をしています。  
(撮影：宮下実)



## “保護されたコアホウドリ”

鳥羽の海岸で衰弱しているところを保護され、鳥羽水族館を通して当園に収容されました。アホウドリより一回り小さく、現在水禽放養舎内で体力回復をはかっています。

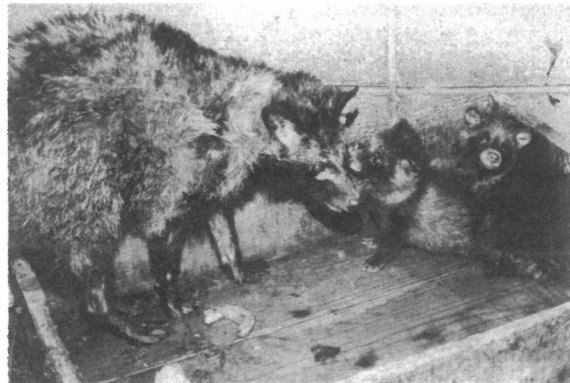
(撮影 宮下実)

# 動物園グラフ

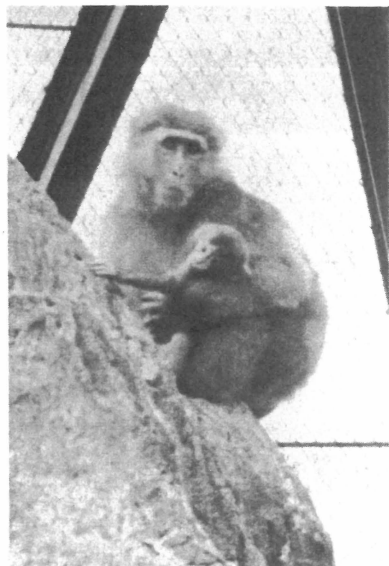
## “ベビーラッシュ” II

先月号に続き、ベビーラッシュの②を御紹介しましょう。

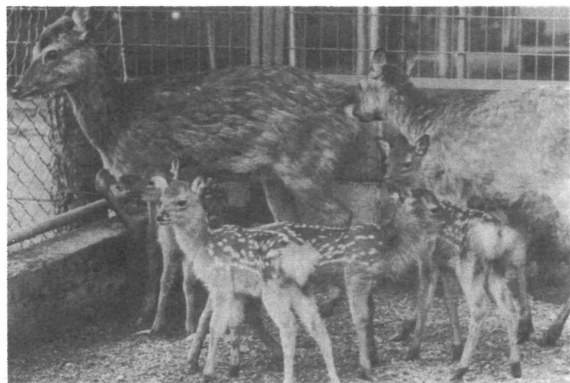
(撮影: 下実・長瀬 健二郎)



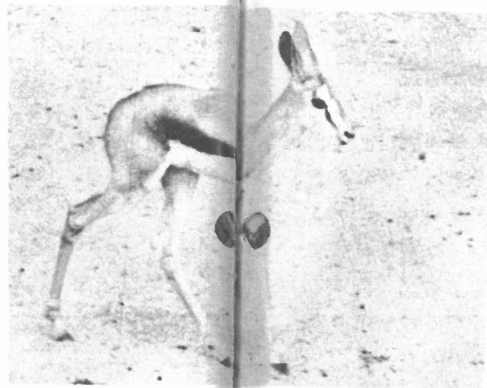
↑タヌキ  
5月19日 3頭の赤ちゃんが生まれました。  
タヌキの繁殖は当園では初めてです。



↑ニホンザル  
今年初めての出産で、5月31日誕生です。



↑ニホンシカ  
4頭のバンビがすくすくと育っています。  
(5月29日、31日誕生)



↑スプリングボック  
6月13日誕生。昨年と続き、3年連続メデタです。



↑ライオン  
6月2日誕生。母親がめんどろをみないため、人工哺育で育てています。



↑バーバリーシープ  
6月5日 三っ仔が誕生しましたが、1頭は惜しくも死亡しました。  
でも残る2頭は元気一杯です。



↑フサオマキザル  
6月14日誕生。母親が見ずため人工哺育で育てています。

## 5・6月の動物園日記

- 5/25. オランウータンが衰弱しているため治療しています。
- 26. カピバラがくる病の疑いがあるため治療を始めました。
- キングペンギンが2羽入りました。
- 27. インドゾウが寄生虫をわかせているため駆虫してやりました。
- 28. タンチョウが産卵しました。
- 治療中のオランウータンが慢性肺炎で死亡しました。

- 29. ニホンシカが1頭生まれました。
- キューバフラミンゴが産卵しました。
- 30. シマウマが回虫をわかせているため駆虫を行いました。
- カピバラが肺炎とくる病で死亡しました。
- 31. ニホンザルが1頭生まれました。
- ニホンシカが1頭生まれ、計4頭誕生です。
- ガモの卵12ケの保護がありました。
- 6/1. 恒例のメンヨウの毛刈りを行いました。
- 2. ライオンが2頭生まれましたが、1頭は惜しくも死産でした。

- ジャコウネコとコアホウドリの寄贈がありました。
- 3. ヨーロッパフラミンゴが産卵しました。
- ヒグマが交尾しました。
- 4. 3月に生まれたコヨーテの仔2頭にジステンパー予防のためのワクチンを接種しました。
- 5. バーバリーシープが3つ子を生まれました。
- 6. 来日公演中の中国京劇団の一行が来園し、園内を見学しました。
- 8. 宮崎フェニックス動物園よりダチョウの卵2ケの寄贈がありました。
- 9. キューバフラミンゴが産卵しました。

- 12. キューバフラミンゴが産卵しました(今年5卵目)。
- 13. フクロギツネ2頭を小獣舎に展示公開しました。
- スプリングボックが1頭生まれました。
- 14. フサオマキザルが1頭(メス)生まれましたが、母親がめんどろを見ないため人工哺育することにしました。
- 16. セグロセキレイのヒナ3羽を保護しました。
- 19. 親から離して餌付中のアシカ1頭が栄養不良で死亡しました。
- 21. オオヅルが産卵しました。
- 飼育研究会が開かれました。

# キーウィによせて

## ニュージーランドの旅から

ニュージーランド。キーウィの国。地球の反対側の、日本によく似た、小さな美しい島。しかし、此の国が何か特殊な感情を抱かせるのは、人類がネズミを持ち込むまで、かつていかなる哺乳類もその国土に存在しなかった、と言う点であろう。広い原野や山岳は、モアやキーウィの地上棲鳥類のものだったのである。洪積世以来、気の遠くなるような幾千、幾億の夜、キーウィのあの独特の「キーキキー、キーキキー」という声がだれは「わかる事なく、南十字星の輝く夜空の下にひびき渡って来たのである」と思われる。

人類が此の国に入って来たのはたかだか二百年来の事だと言う。ニュージーランドはそういう意味で何か「とっておきの国」、という気がする。直接現地の風土にふれて、その感は一層深かった。



オークランドの動物園は、規模は大体同じ様なものだが、樹木と花とが美しい造園美を見せている。丁度3月20日の日曜（気候は日本の反対の秋）だったが、静かでのんびりしていたのは、日本の都市の動物園に比べて、入園者がぐっと少ない事とマナーの良さの故であろう。一応、「動物に餌を与えないように」と言う注意書はあるが、その前で餌をやっているというような強心臓の人はだれもいない。その代り動物の方も、我関せずと言った風で、「餌をねだる」という風景は見られない。飼育係としては、自分の担当動物のあの生々とした、口ほどに物を言う瞳を思い出して、同じ種類の動物でもこんなにも違って見えるものか、知り合いの動物と言うものは、

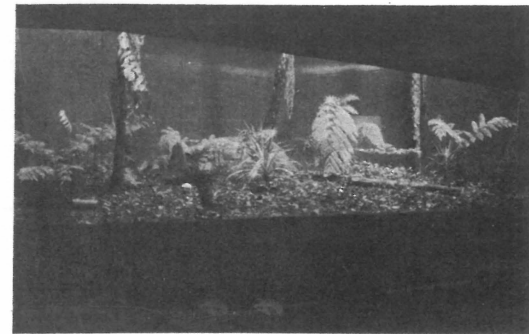
人間関係の友人や知人と同様なのだと今更思ったりした。印象的だったのは、河馬が園内に取り込まれた自然の川で悠々としていた事である。低い橋の真下に河馬が見られる。水鳥がその上流にいた。手間がかからず、美しく楽しい。

キーウィ担当のツレバー氏がヘッドキーパーの方と待っていて下さった。私の今度の旅で非常に恵まれていたのは、最も重要な方々、始めから順に、旅行社（十日間、中三日の自由行動）の添乗員三好氏、動物園での通訳をお願いした、恵子・ギャリテイ夫人、そしてこのツレバー氏、と全く幸運にすべて素晴らしいお人柄の方々だった事である。ほんとにおかげでどれ程ありがたかったか知れない。私事ながら誌上をかりて改めて御礼申し上げたい。ツレバー氏はお忙しい中を私の為に「こんなにしゃべった事はない。声が潤れた」と笑われた程、いろいろ教えて下さった。

たとえ国は違っても、同じようにキーウィという鳥に抱く関心が共感と呼んで、ほんとに気持ちの良い時間を持たせていただいた事は何よりの喜びであった。オークランドでは三月現在十二羽のキーウィがいるとの事だったが、展示場には二羽だけで、あとは園内の低い囲いの中に自然に近い状態で放飼されている。展示中のキーウィは三ヶ月で交替させると



の事であった。展示はさすがに見事で（オトロハンガーキーウィハウスでも同様）夜のような暗さの中で二羽のキーウィがユーモラスな姿を見せて動き廻っていた。ほんとに素晴らしい眺めだった。植物の方は予想通り、特殊な育成の照明を用いているとの



事であったが、問題は廊下の暗さと音である。造りがコの字型で光を入れないようにしてあるのは勿論だが、足元には僅かな明りがあるばかり、それこそアヤメもわかぬ暗の廊下で、目が馴れるまでは手さぐりで行かねばならぬ程暗くしてある。下はすべて厚いカーペットを敷きつめ、足音がしないようになっている。だからこそ、キーウィは夜の感覚で出歩いていられるのであろう。羨しい限りであるが、この展示方法こそ、入園者のマナーが解決する問題であろうと思われた。



たゞ現在、当園のニュージー君は自然の状態にまかせている為、どうしても担当者との接触が少なく、他の動物たちのように、表情や動作から要求を察してやる、と言う飼育方法が取りにくい。

その意味で、ニュージー君が不自由をしているのではないかいつも気の毒に思っている。たゞ此の頃、ニュージー君はパンを持って行って声をかけると木穴の中から嘴だけ出して、一つづつあの長い嘴の先で器用につまんで食べる。丁度象が鼻先でやるように、大きさの手頃なのを選ぶ。

もういいかと思つて器をひこうとすると、マダマ

ベルノダと言つてうなったりする。勿論すっかり暗くなってから出て来て食べるのだが、その前のおやつと言うわけらしい。たゞこれもうす暗くなった夕方であればダメであつて、その点かたくなである。ウナル処が可笑しい。六年前、来た当座のあのおびえようがうそのように、近頃はイバっている。

話を戻して、キーウィの抱卵日数は七十四日。ツレバー氏は、雛がえるとすぐひきあげて、人工育雛しておられる。私が伺った時も、三羽の小っちゃなキーウィがいた。成功するようになったのは最近の事で、合計七羽だとか言うお話であつた。

「もっともっと、自分の手でキーウィを増したい。孫がとれてこそ、ほんとに繁殖に成功したと言える。今は卵のとれるのは一番しかいない。もつといつがいのキーウィが欲しい」ツレバー氏の望みは、同じ飼育にたづさわる者として心から同感出来た。

ニュージーランド人は、自分達の事を「キーウィ」だと言うと聞いていた。ナショナルパークでキーウィの説明を書き写していたら、旅行者らしい、四、五人の人々が、親切に、あちらの店で本を売っていると教えてくれた。感謝して、どちらの国の方がと尋ねたら、「ウィ・アー・キーウィズ」と言う素晴らしい笑顔の答が返つて来た。成程、こういう風を使うんだな、と思ったものである。しかし、そこには、キーウィに対する愛情以外に、自分達は、「後より来れるもの」であり、先住者はあくまで、キーウィなのだ、と言う想いがこめられているのを、ふっと感じさせられた。モアを終に、人手によって、絶滅させてしまった悔も含まれているのかも知れない。

わがニュージー君を始め、すべてのキーウィが今後とも、あらゆる障害を乗り越えて、強くたくましく、生き続けてゆく事を切に祈るものである。

最後に、快い旅をさせて下さった、ニュージーランドの方々へ感謝を送りつつ、拙いペンをおく。

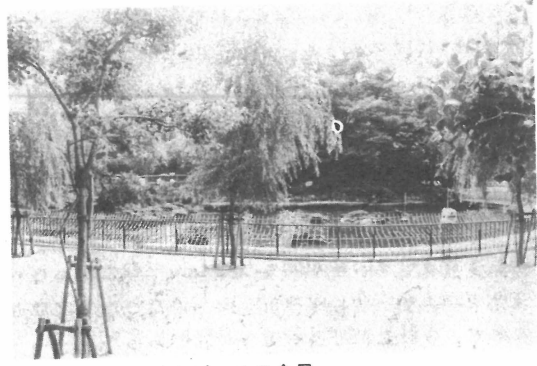
（飼育課 磯田 啓子）



# 天王寺の動物たち (15)

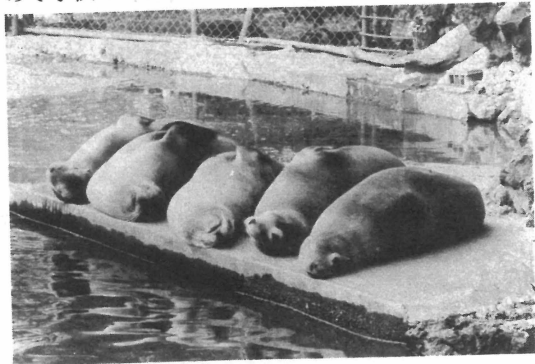
## ミナミアメリカオットセイ

今、南園のアシカプールには9頭のアシカと3頭



① アシカプールの全景

のミナミアメリカオットセイが住んでいます。このミナミアメリカオットセイは日本に6頭しかいない貴重な動物なのですが、今年の5月10日、日本で初めて子供が生まれました。この出産と成育の経過など



② 同居しているアシカ

を今月はお話したいと思います。

ミナミアメリカオットセイはその名の通り、南アメリカの南半分を取りまくように、その沿岸地方に住んでいます。特にウルグアイの沿岸には多く、その数は7万頭とみつもられています。その他のフォークランド諸島やペルー沖などのものを含めると、現在、13万頭から26万頭のミナミアメリカオットセイが生息すると考えられています。

さて、天王寺のミナミアメリカオットセイは昭和49年1月14日にペルーから、そろって入園してきました。この時大体2.5才位と思われましたから現在

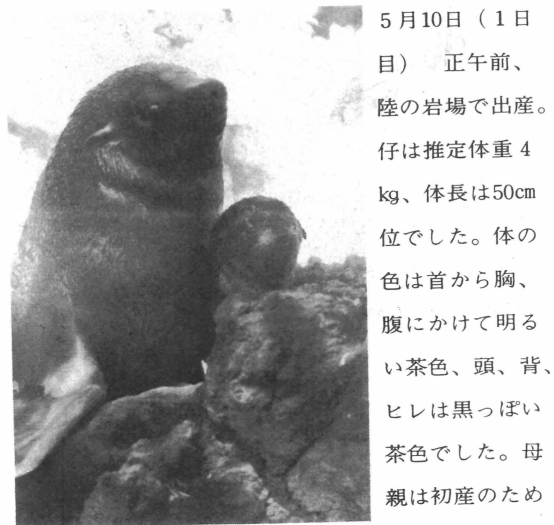
約5才ということになります。

父親は現在約140kg、母親は約70kgですが、成長しきるとオスで300kg、メスで125kgと言いますから、この両親はまだまだ大きくなりそうです。ですから食欲も旺盛で1日

に1頭で約4kg、大体50~80匹ものアジを食べます。

原地の南アメリカでの繁殖期は11月から1月だそうです。これは南半球では春から夏にあたります。南半球から北半球に連れてこられて、この両親も初めはめんくらったことでしょう。でも、やってきて2年たち日本の気候にもなれたのか原地では秋から冬にあたるのでしょうが日本では春の5月に出産をしました。

次に出産とその成育ぶりを御紹介しましょう。



④ 岩場のかげから顔を出す赤ん坊か、かなり興奮



③ 手前が父親、後が母親

5月10日(1日目) 正午前、陸の岩場で出産。仔は推定体重4kg、体長は50cm位でした。体の色は首から胸、腹にかけて明るい茶色、頭、背、ヒレは黒っぽい茶色でした。母親は初産のため

していました。仔は乳頭をなかなか見つけれず、この日はオっぱイを飲めなかったようです。

5月13日(4日目) 母親はようやく落ち着いてきたようで、出産してから始めてエサのアジを食べました。これまでの3日間は絶食でした。

5月14日(5日目) これまでずっと出産した岩場から移動しなかったのですが、この日始めて後の土の部分へ移動しました。赤ん坊はヨチヨチと母親のあとをついて歩くのですが、乗り越えられない岩場では母親が猫のように仔の首すじをくわえてひっ



⑤ 赤ん坊の首すじをくわえる母親

ぱりあげていました。5月17日(8日目) 母親が仔を岩場に残したままエサをもらいに降りてきました。母親が仔と別れて行動したのはこの日が始めてです。また、この日はじめて哺乳している所を見ることが出来ました。

やはりアシカと同じように、母親が上向きか横向きになって哺乳していました。赤ん坊が鳴いている時



⑥ 母親のオっぱイにすがりついています

注意して口の中を見てもうだいぶ大きく伸びた歯が10本位見えました。アシカでは生れた時から歯が生えている赤ん坊もいますから、このミナミアメリカオットセイの赤ん坊も生まれた時から生えていたのかも知れません。



⑦ 口をあけると歯が見えます

5月19日(10日目) 赤ん坊が誤ってプールの中に落ちてしまいましたが、すぐ母親が首すじをくわえてひきあげました。アシカの仔では5日もすると泳ぐものがありますからこの赤ん坊は少々オクテのようです。

5月26日(17日目) この日以来、朝見に行くと赤ん坊の体がぬれていました。どうも朝早くに泳ぎの練習をしているようです。

6月1日(23日目) 捕えて体重を計ってみました。もう7.2kgになっていました。

6月9日(31日目) 昼の間1時間程泳いでいたのが観察されました。とても上手にお母さんのあとについて泳いでいたそうです。

原地の南アメリカでは毎年4~5000頭のミナミアメリカオットセイが毛皮用に捕獲されています。しかし、この数字は全体の数を減らさないよう科学的に計算した頭数だそうです。日本のように非科学的に、無差別に動物を殺さない南アメリカにいる限りこのミナミアメリカオットセイは絶滅の心配はないと思います。

(飼育課長 瀬 健二郎)



# 獣医室から⑪

## 野鳥の保護

最近、野鳥の保護が相ついでおり、研究室も大忙しです。保護されて来る野鳥はヒナの場合もありますが、ほとんどは傷をしたり衰弱をして保護されて来るものが多いようです。中には卵で保護されて来る場合もあります。

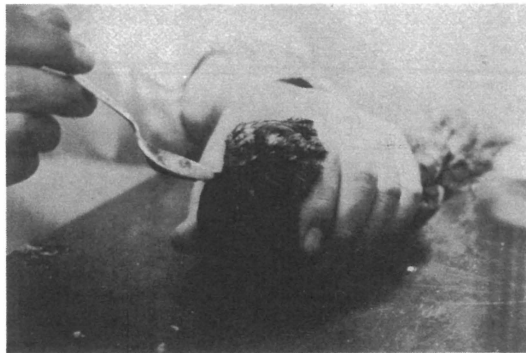
昭和50年4月から昭和51年3月までの1年間に保護収容された野鳥は下の表の通りで、44種 133羽もの野鳥が保護されました。この内、元気の回復したものは、できるだけ自然に返すようにしています。

昭和50年度 (S.50.4~S.51.3) に保護された野鳥

ハシトガラス	1	オオヨシゴイ	1
スズメ	3	マガモ	2
モズ	1	カルガモ	2
ヒヨドリ	2	オシドリ	1
センダイムシクイ	1	ウミツバメ	1
ツグミ	1	オオミズナギドリ	32
イソヒヨドリ	1	キジバト	10
ホントウアカヒゲ	2	ダイシャクシギ	1
ツバメ	6	ヤマシギ	3
ヨタカ	1	タシギ	3
ミソサザイ	1	タマシギ	1
コノハズク	1	ムナグロ	2
トラフズク	1	シロチドリ	1
コミミズク	1	タゲリ	1
アオバズク	1	セグロカモメ	1
フクロウ	4	ユリカモメ	1
ツミ	2	クイナ	1
トビ	9	ツルクイナ	2
トラツグミ	1	ヒクイナ	3
アオサギ	1	バン	1
コサギ	1	コジュケイ	5
ゴイサギ	12	キジ	4

この中で、ホントウアカヒゲは絶滅の恐れのある鳥として、特殊鳥類に指定されている貴重なものです。保護されて来る原因は、鳥が餌を求められなかったり、あるいは寒さや疲労などから衰弱して保護される場合が多く、約30%がこの原因です。次に多いのが、まだ巣立ち前のヒナの状態で保護されて来るもので、18%を占めます。三番目に多いのが骨折や打撲傷などの外傷によるもので、15%もあります。

現在、研究室で保護している野鳥はトビ2羽、アオバズク1羽、ヨタカ1羽、ツバメ1羽、セキレイのヒナ3羽で、順調に回復、育成しており、ヨタカ



ヨタカ



ツバメ

ツバメ、アオバズクは近々自然に戻すことができそうです。セキレイのヒナはブルドーザーの上でふ化したもので、ブルドーザーを動かすため、やむなく当園に保護されたものです。又、5月の初めには大阪南港の貯木場の木材の穴にあったカルガモの卵が12ヶ持ちこまれて来ました。これは木材が遠くへ運ばれることになり、やむなく抱卵中の卵を取りあげることになったもので、早速、ふ卵器に入れたところ、6月3日に11羽のヒナが誕生しました。

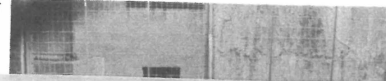
いずれにしても野生に返すことができるものはい多いのですが、翼や脚の骨折したものはなかなか自然へ戻すことができず、園内の一隅で一生を過ごすこととなります。(飼育課 宮下 実)

# 動物園ニュース

☆まだまだ続くオメデタラッシュ!

先月号で、コヨーテ、バーバリーシープ、アライグマ、ミナミアメリカオットセイ、ラマ、トカラヤギ、トラ、タヌキなどの出産をお知らせしましたが、それに続く出産をお知らせしましょう。5月29日にニホンシカが

1頭生まれ、



を始めとして、6月12日までに計5ヶ産卵、抱卵しています。うまくいけば、7月初め頃からかわいいヒナが続々誕生することでしょう。又、5月28日にはタンチョウヅル



## 夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



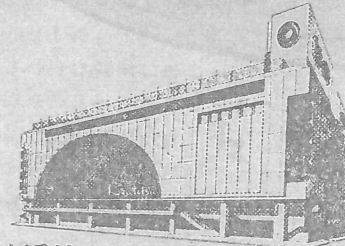
上本町近鉄 TEL. (06) 779-1231



アベノ近鉄 TEL. (06) 624-1111



奈良近鉄 TEL. (0742) 33-1111



東京近鉄



スクスクと育っています。(グラフ参照)

☆産卵相つぐ!!

いよいよフラミンゴの繁殖シーズン到来で、現在10ヶ所の巣ができており、5月29日にキューバフラミンゴが産卵したの



が誕生することでしょう。

**休園のお知らせ**  
毎月才三月曜日は休園日です。7月以降の休園日は下記の通りです。  
7月19日、8月16日、9月20日、  
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売り止めです。



# 獣医室から⑪

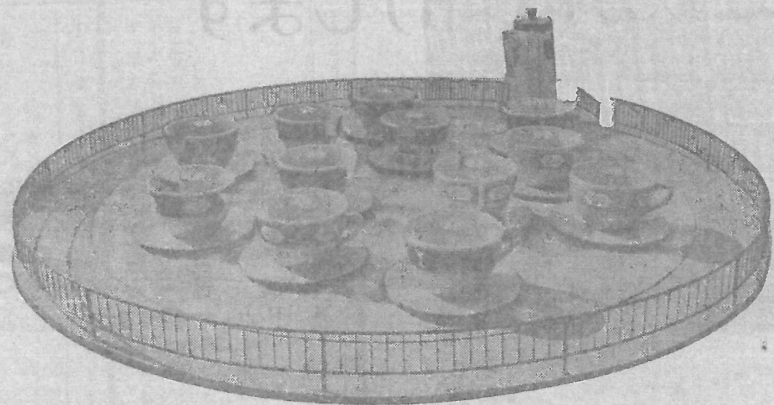
## 野鳥の保護

最近、野鳥の保護が相ついでおり、研究室も大忙しです。保護されて来る野鳥はヒナの場合もありますが、ほとんどは傷をしたり衰弱をして保護されて来るものが多いようです。中には卵で保護されて来る場合もあります。

現在、研究室で保護している野鳥はトビ2羽、アオバズク1羽、ヨタカ1羽、ツバメ1羽、セキレイのヒナ3羽で、順調に回復、成育しており、ヨタカ



## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹 娯楽 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

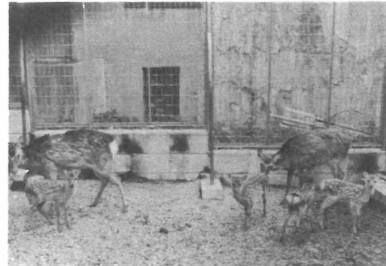
ったり、あるいは寒さや疲労などから衰弱して保護される場合が多く、約30%がこの原因です。次に多いのが、まだ巣立ち前のヒナの状態でも保護されて来るもので、18%を占めます。三番目に多いのが骨折や打撲傷などの外傷によるもので、15%もあります。

ろ、6月3日に11羽のヒナが誕生しました。いずれにしても野生に返すことができるものはよいのですが、翼や脚の骨折したものはなかなか自然へ戻すことができず、園内の一角で一生活を過ごすこととなります。(飼育課 宮下 実)

# 動物園ニュース

## ☆まだまだ続くオメデタラッシュ!

先月号で、コヨーテ、バーバリーシープ、アライグマ、ミナミアメリカオットセイ、ラマ、トカラヤギ、トラ、タヌキなどの出産をお知らせしましたが、それに続く出産をお知らせしましょう。5月29日にニホンシカが1頭生まれ、5月31日までに計4頭誕生しました。放飼場の一角を柵で仕切り、母仔だけに



していますが、順調な成育ぶりです。5月31日にはニホンザルが1頭生まれました。母親もしっかり抱きしめて、じょうずに育てています。6月2日にはライオンが2頭生まれました。1頭は惜しくも死産でしたが、残る1頭は人工哺育に切りかえ、同じく人工哺育中のトラと仲よく育てています。6月5日にはバーバリーシープの3つ仔が誕生しました。



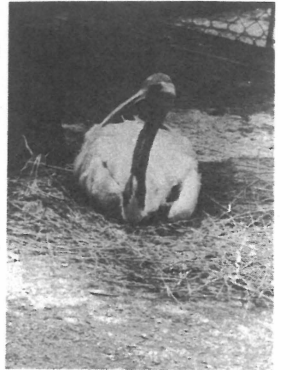
バーバリーシープの3つ仔は非常に珍しいのですが、当園では今年3回連続の3つ仔だけに驚きです。惜しいことに1頭は虚弱なため死亡しましたが、残る2頭は元気に走り回っています。6月13日にはスプリングボックが1頭誕生しました。昨年、一昨年と2頭ずつ生まれており、3年連続のおめでたです。6月14日にはフサオマキザル(メス)が生まれました。この仔は母親がめんどろを見ないため、人工哺育で育てていますが、スタスタと育っています。



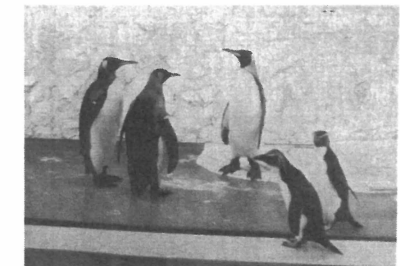
## ☆産卵相づく!!

いよいよフラミンゴの繁殖シーズン到来で、現在10ヶ所の巣ができており、5月29日にキューバフラミンゴが産卵したの

を始めとして、6月12日までに計5ヶ産卵、抱卵しています。うまくいけば、7月初め頃からかわいいヒナが続々誕生することでしょう。又、5月28日にはタンチョウヅルが、6月21日にはオオヅルが産卵し、現在抱卵を続けています。



## ☆キングペンギン入園



5月26日、2羽のキングペンギンが入りました。早速、冷房ペンギン舎に入れ、前から居るキングペン

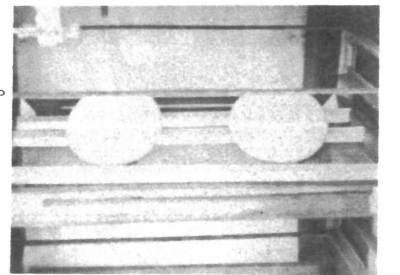
ギン1羽と一緒にしました。

## ☆コアホウドリの保護

6月2日、コアホウドリ1羽を保護しました。コアホウドリというのはアホウドリより少し小形の鳥で、本州の太平洋岸の沖合でよく見られます。5月に鳥羽で衰弱しているのが保護されて、鳥羽水族館を通して当園に保護収容されました。現在水禽放養舎で体力を回復中です。(3P参照)

## ☆ダチョウの卵の寄贈

6月8日、宮崎県のフェニックス自然動物園よりダチョウの卵2ヶの寄贈を受けました。2ヶの卵はすぐふ卵器に入れて大切に扱っています。うまくいけば7月20日頃にかわいいヒナが誕生することでしょう。



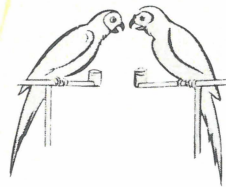
## 休園のお知らせ

毎月才三月曜日は休園日です。7月以降の休園日は下記の通りです。

7月19日、8月16日、9月20日、  
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売り止めです。

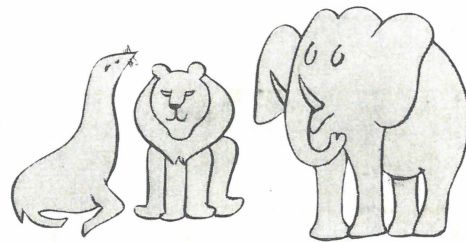


なきごえ 昭和51年7月15日発行 (毎月1回15日発行) 第12巻第7号(通巻131号)  
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201  
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823  
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三 >  
 深井 和美・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志